

つかさ会 会報



会員の皆さん、こんにちは。暑さもようやく落ち着いたようにも思う今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。朝夕の空気も爽やかになり、体を動かすのにぴったりの季節となりました。10月19日(日)には、岐阜公園にて「歩いて学ぶ ダイアベティスウォーカリー in 岐阜 2025」が開催されます。また、11月30日(日)には、岐阜大学医学部記念会館にて、毎年恒例の「つかさ会 秋の講演会」を開催いたします。受付締切は、11月14日(金)です。詳細は同封する案内状をご参照ください。今年もお弁当をご用意しております。体を動かしながら楽しく学べる講演会を企画しておりますので、皆様奮ってご参加ください。

さて今月は、当科の佐伯先生に、「さかえ」の読みどころを紹介していただきます。

つかさ会のみなさん、こんにちは。岐阜大学医学部附属病院の糖尿病代謝内科/免疫・内分泌内科の佐伯と申します。朝夕が涼しくなり、秋の気配を感じることが増えてきました。日中との寒暖差も大きい時期ですので、どうぞ体調には十分ご留意ください。

今月号の『さかえ』の特集1は「最新の糖尿病網膜症診断」(P.5)です。糖尿病網膜症は糖尿病の合併症のひとつで、網膜の細かい血管が傷ついて視力障害を引き起こす病気です。この病気の難しいところは、早期には自覚症状がなく発見が遅れてしまうことがあるところです。そのため糖尿病のある方は目の奥にある網膜の状態を調べる、『眼底検査』を定期的に受けることがとても重要となります。しかし、実際には、糖尿病のある方の半数以上が推奨される定期検査を受けていないのが現状です。みなさんは定期的に『眼底検査』を受けていらっしゃいますか。一方で、『眼底検査』は進歩しており、AI診断や短時間で行える技術も登場しています。本特集では、こうした最新の技術と眼底検査の大切さについて分かりやすく紹介されています。糖尿病網膜症をはじめとした合併症を防ぐためにも、定期検査・定期受診を続けていきたいですね。

特集2は「防災—糖尿病を抱える方の災害の備え」(P.33)です。いつ起るか分からぬのが災害です。食事や飲み物の備蓄はできていますでしょうか。いつもの飲み薬やインスリンなどの注射薬については、災害時はどのように注意すればよいでしょうか。また、食事が十分に確保できないときには低血糖にも注意する必要があります。今回の特集では、それぞれのお薬ごとに災害時の注意点が整理されています。ぜひこの機会に、ご自身の備えを確認してみてください。

今月号の特集は糖尿病網膜症と災害についてでした。糖尿病合併症も災害も、“備え”がとても大切です。何もない今だからこそ、できることをすすめていきましょう。暑すぎた夏もようやく終わり、これからは秋本番です。虫の音を聞きながら散歩するのもよいですし、絵を描いたり、美術館に行ったり芸術を楽しむのもよい季節です。果物がおいしい季節もあります。どうぞみなさんにとって、この秋が健やかで素敵な季節となりますように。

